「笠間稲荷神社　御田植祭」に参加しました

平成２３年５月１３日（金）号
茨城県立水戸農業高等学校　農業クラブ

平成２３年５月１０日（火）曇り空の下，笠間稲荷神社の神餞田（笠間市立図書館前）で御田植祭が斎行されました。

御田植祭は，大神様に毎朝お供えする御食となる稲の苗（玉苗）を植え付け，豊作を祈願する神事です。午前十時，煙火を合図に斎主以下，神職，舞姫，奉耕者，早乙女等が神餞田に参進し，祭典が始まりました。その後，舞姫により，御田植の姿を表した優美な「稲荷舞」，極楽に住む鳥が楽しく遊ぶ姿を表した「迦陵頻の舞」が奉奏されました。また，笠間中学生が「御田植歌」を奉唱する中，神餞田に玉苗を植える御田植の儀が行われました（参考資料：笠間稲荷神社　社報　胡桃（くるみ）No.24）。

水戸農業高校から食品化学科３年生４名，食品化学科２年生１名，畜産科２年生１名，合計６名の女子生徒が参加しました。早乙女（田植えをする女性の意味）の衣装になり，元気よく玉苗を植えつけました。今年は東日本大震災による風評被害払拭の願い，復興祈願も込められました。

補足．田んぼの神様は，男。女性が素足で田んぼに入ってくれて大喜び。神様は，ご褒美に豊作を約束してくれる。そんな話があります。若くて美しい女性が早乙女になり御田植祭に参加すれば“大豊作”間違いなし。

●茨城新聞　平成 23 年 5 月 11 日（水）号

早乙女ら豊穣祈願
笠間稲荷御田植祭

その年の豊穣を祈願する農作物の風評被害をはねのける願いを込めた。

「御田植祭」が10日、笠間市石井の御神饌田で行われた。かすりの着物に花笠姿の早乙女らは稲の苗を一束一束丁寧に植え、東日本大震災による約10㌶の御神饌田で実施。収穫される米は神社へ毎日御供えする御米として使われる。巫女の「稲荷舞」や氏子女子中学生の「迦陵頻」などの舞を奉納した。

玉苗を丁寧に植えていく早乙女ら＝笠間市石井の笠間稲荷神社神饌田

塙東男宮司は「例年通りに開催でき、本当にありがたい。農作業の大切な役割を、もう一度考え直していければ」と述べた。

農業高校3年、三村智美さんは「初めてだったけど、緊張せずにできた。震災で大変な時期にこういう伝統行事へ参加させてもらい、周りの方に感謝したい」と感想。

（松本隆吾、写真は嘉成隆行）

写真１．斎主から玉苗を受領

写真２．奉耕管理者と一緒に御田植え

写真３．参加した６名の生徒